

コラム 61 — 原嘉道枢密院議長のソ連攻撃進言

1941 (昭和 16) 年 7 月 2 日の御前会議で、原嘉道枢密院議長 (松岡外相も同じ) は、対ソ攻撃を主張し、次のように述べています。

「独ソ開戦が日本のため、真に千載一遇の好機なるべきは皆様も異論なかるべし。ソ連は共産主義を世界に振りまきつつある故、何時かは打たねばならぬ。現在シナ事変遂行中なる故、ソ連を打つのも思うように行かぬと思うけれども、機を見てソ連を打つべきものなりと思う。帝国としては英米との開戦は望まない。国民はソ連を打つことを熱望している。この際ソ連を打ってもらいたい。日ソ中立条約のため、日本がソ連を打たば背信なりとなりというものもあるべきも、ソ連は背信行為の常習者なり、日本がソ連を打ちて不信よばわりするものなし。私はソ連を打つ好機到来を念願して已まざるものなり。米国との戦争は避けたい。ソ連を打つも米国は出ないと思う。」